

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

美和

日付 平成20年1月16日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 在宅介護経験13年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

山間の古民家の前の畑際にある柿を採っているのが管理者だった。そのゆったりとした屋敷がこのホーム。玄関を入ると“いらっしやい”と利用者の声。「どちらから来なされたかな・・・？」と話のできるお年よりの問いかけは、柔らかに歓迎の気持が伝わってくる。6人ばかりの方々が居間は座敷を改造してのフローリング風の洋間におられた。おだやかでゆったりとした気分が流れている。管理者が取ってきた柿は、「さんまた、柿むきをしてくれますかァー」の声かけに、「へえ、いいですよ・・・」の返事が帰っている。軒先には数日前に作業された吊るし柿が下がっているの、今日が始めてのことではない。昔からの仕事の流れが、いまでもこのホームの生活の中に日常的に流れている。夫々の利用者の残っている能力は、ホーム生活の活力と位置付けられているようだ。

周囲に畑も持っているので、一寸した野菜類も植えていて鮮度のいい食材にもなっている。また、法人の園長が耕作して収穫された新米が食卓に給される状況は、まさに土地に根ざした生活の延長がここにある。当初は、畑仕事などをかなりの利用者が楽しんだ時期もあったが、重度化が進み参加者が減ってきているのが淋しいと管理者が言う。

それでも、この周辺の豊かな自然は得難い財産で、今年の夏は近くを流れる小川に舞った蛭見物に出かけて皆で楽しんだという。地域の人にもホームに集まってもらっての敬老会は、三味線などのボランティアにも参加してもらおうなど、地域との交流の輪が広がっている。

一人の利用者は、和歌山から見舞いに来てくれた娘さんが今朝帰ったばかりだと、何度も話してくれる。自分の部屋と一緒に寝た昨夜の幸せな名残をいとおしむように・・・その娘さんは、このホームが2ヶ月に1回開催している運営推会議に、昨夜参加したそう。この機会に昨日は利用者のターミナルについての考え方も話し合えたそう。この会議には、家族に順次参加してもらっているとのこと。訪問中にも、近くの医院で看護師をしている利用者のお孫さんが訪問して来られたが、こうしたことにも普段から家族とのしっかりとした繋がりを持っていることが伺われる。自然体の中で、地域に根ざし安心して生活を継続しようとしている安定感が伝わってくる。

特に改善の余地があると思われる点

昨年度提起していた運営推会議の活用もしっかりと取り組んで、着実な進展の足取りが見られる。開設2年半を経過して、次のステップを踏む段階に差し掛かっているように思う。利用者の状況把握を、スタッフ全員の意見を出し合いながら見直してそれぞれのケアプランを再構築してはうでしょう。そうした中で、夫々個別のリハビリプランなども明確になること思う。

介護記録は事実記載に加えて、利用者の生の言葉が記載されるようになれば本人の気持や意思が一層よく汲み取れるようになると思う。また、職員の個別のケアに当たっての意見や疑問も自由に記載されるようになればよいと感じた。

## 2. 評価結果（詳細）

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：改善事項はないが、職員夫々の持味を活かして理念を実践しようとしている。家族との繋がりをしっかりとしながら、着実に地域の人々との交流が深まってきている事を評価したい。</p> <p>2. 全体的に見て…：昔ながらの古民家を活用してのホーム作りが、利用者の生活感を支えてきているようだ。夫々の能力に見合った作業を日々の暮らし中で活かしているのがよい。周りの山や川、畑などの利用できる自然環境に恵まれ、当り前のようにそれらを活用できている事が、利用者の落ち着きをもたらしているのだろう。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：改善項目は特になし。田舎の旧家の屋敷をそのまま転用してのホームなので、利用者にとって申し分ない環境にある。</p> <p>2. 全体的に見て…：認知症の人にとっても違和感の無い、昔ながらの生活様式がそのまま継続できる場になっている。それが、落ち着いた利用者の生活ぶりに大きく貢献しているに違いない。また、職員の自然体でのかかわりの姿勢がそうした生活感を作り出している。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：チームケアのための定期開催を目指そうという意向は重視したい。1ユニットでの職員相互の意思伝達はそれなりに緊密であるが、より一層まとまりあるケアの水準を高めるきっかけとして欲しい。</p> <p>2. 全体的に見て…：利用者の個性や身体的・精神的レベルは様々ではないが、夫々の残っている生活能力を活用してのケアを目指している。台所の手伝い係り、菜園作り、果物の加工社作業、歌の趣味の人…夫々個々も持味を尊重してその人らしいあり方を保障しているようだ。食事やお茶の時間以外は、夫々が自由に自分の時間を過ごしているように見えるのも、そうした考え方の反映であろう。比較的、夫々の利用者が自分の居場所を独自に作っているようにも見える。個々人の生活が尊重されているからだろう。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：ホーム機能の地域への還元の項目がこれからの課題となっている。その点が、まさにこれからのこの地域から期待されている部分に違いないと思われる。是非、その取り組みを進めて欲しいものだ。</p> <p>2. 全体的に見て…：開設2年半を経過し、ホーム運営の基礎が固まってきつつあり安定したケアぶりを感じられる。昨年度の外部評価などの提言などを生かして、地域との交流や運営推進会議などを取り組んで確実に前進している。また、圏域のグループホームとの連絡会議に積極的に参加し、情報の収集や質の向上研修を大切に取り組んでいる。職員全体の意見や意欲を集約しながら、3年目というステップをしっかりと踏み固めて欲しいと願っている。</p>		